

## 真菌検査の基礎知識

国立衛生試験所

真菌室長 倉 田 浩

真菌 Eumycotina は分類学的には菌類 Mycota に属する一群で、細菌、放線菌、粘菌 Myxomycotina と区別される一門で、俗にいうカビ、酵母、キノコなどがこれに含まれる。簡単な言葉で定義づけると葉緑素を欠く下等な植物といわれているが、近年これに異議をとなえる学者が出てきた。彼等は生物、植物、動物に分け、真菌はこの原生生物（微生物）に属する一群であつて決して植物の下等なものでないとする説に多くの賛同者が出ている。

医真菌学 medical Mycology の領域では、今までの慣例で放射菌による疾病も取扱つていて、本来の自然分類にあてはまらない点が1つの特徴である。いうまでもなく真菌症の病原菌の大部分はカビ（糸状菌）または酵母である。ところで、カビと酵母とはどう違うのかというとカビはその生活環のほとんどを糸状の菌体ですごすもので、酵母は単一の細胞ですごすというだけの違いで、酵母によつては、ある条件下でほとんどカビと同じ形態（仮生菌糸）をもつ種類もある。また酵母だからといって必ずしもアルコール発酵能をもつとはかぎらない。

現在われわれをとりまく真菌は10万余種あるといわれ、その中で人および動物の病原菌は約60種に過ぎない。このようにきわめて限られた種類で

あることから、今までは細菌学を専攻する者が片手間に真菌検査、研究などを担当してきたものと思われるが、微生物学であるという立場では共通する部分もあるが、実際は手扱う手技がかなり違っていること、また真菌はその生理生態的な動行について細菌とは別個に考えるべきことが学問の進歩につれて次第に判りかけてきたので、専門家の育生が急務であることに遅ればせながら気がつき始めたところである。

病院における臨床検査部門の強化は現在生化学的な分野に多くの目がむけられているが、微生物検査でも特に真菌検査については改めて検討願いたいものである。最近の医真菌領域における業績をみると、菌学者との協力による臨床家または病理学者の研究により新しい病原を究明し得たという仕事は少なくない。

真菌と人間生活との関係、真菌と細菌の生態生理系の相違点、真菌分離培養の特殊技術、真菌の種の分類同定に必要な基礎知識等のあらまし、医真菌における1、2の問題点をとりあげて解説した。

これらの解説により、今まで取つつきにくいと考えていた真菌に対する旧来の陋習をすてこれと取組みたいと希望する方がでてこられるならば、これに過ぎる喜びはないと思う。